

第1回京都市ウッド・チェンジアクション推進会議 議事概要

1 日 時：令和5年2月3日(金) 14時～16時

2 場 所：職員会館かもがわ

3 議事次第

(1) 推進会議の設置について

(2) 京都市における木材利用に関する状況

(3) 構成員からの話題提供

- ・ 京都信用金庫：店舗における木材利用の取組など
- ・ 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社：ESG投資と木材利用

(4) 木材利用促進の取組について

4 議事概要

(1) 推進会議の設置について

- ・ 推進会議、府民会議とも全体会議は年に数回しか開催されないが、業種別・対象別のネットワークや話し合いなどをもち、その結果を全体会議に共有していただくことで、話し合いに参加していない全体会議メンバーもいろいろと考えておけるので、継続した取組になるのではないかと。
- ・ 府市協調した木材利用の取組になるよう、府と市の関係を整理できればよい。

(2) 京都市における木材利用に関する状況

- ・ 建築着工数が多い京都市において、京都府内産木材、京都市内産木材をどう使っていくかということは推進会議の目的の1つである。

(3) 構成員からの話題提供

- ・ 来訪者が多い金融機関の建物を木造とすることは効果が非常に高い。過去には、人々の目に止まるところに洋館建築の銀行がそびえ立つことによって、ヨーロッパのような先進国になってくるという意識を持つことができた。金融機関から木造になれば、本当にまちが変わってくると思う。
- ・ 木の文化都市・京都で、今後ESG投資を民間に進めていただくことも想定し、市が行財政上の支援をすることもあるのかもしれない。
- ・ 中高層の木造建築物を建てられるようになってきており、京都でも本格的な木造ビルを作っていくことに取り組んでほしい。木造なら31mを超えて優先するといった考え方もあってもよいかもしれない。

(4) 木材利用促進の取組について

- ・ 京都市内産木材「みやこ^{そまぎ}杉木」について、構造材や化粧材のそれぞれの特徴や、他地域の木と比較した特徴が示されていると使いやすい。地元の木を使っていると伝えるだけでも、利用者に満足感を持っていただけることもある。
- ・ みやこ杉木の利用補助制度は利用者に大変喜ばれている。京都府内産木材の補助制

度と併せて活用いただき、店舗の改修などで木材を利用してほしい。

- ・ 現在、事務所を建築中である。地域の木材をふんだんに使い、内装も大変きれいなものとなっているので、今後の会議場所としてもぜひ使っていただきたい。
- ・ すまいのワンストップ窓口として、すまいに関する様々な情報をWEBやSNSで発信している。木材利用の情報発信、魅力発信にも活用していきたい。最近では、若い方に関心を持ってもらえるよう、DIYの情報なども発信している。
- ・ 京都の木材で中古住宅や町家を改修し、付加価値を付けて流通させていくことも大事ではないか。木材の利用促進だけでなく、家やまちの価値を高め、若い方の流出を防止することにもつながる。
- ・ 京都の大径木を社寺などの文化財の改修で使う仕組みを作ることも必要ではないか。京都の文化財は京都の木で直すという意識を持ちたい。
- ・ 建築物の木造・木質化に関する講習会を開催するので、ご参加いただきたい。
- ・ 京都の木をブランド化し、魅力を発信する取組を検討している。「木にもあるはず 新しい価値観」のテーマで講演会を開催するので、ご参加いただきたい。
- ・ 北山杉などの品質の高さや質の高いデザインを海外に持っていくことで、高級材として住宅以外でも使われる可能性がある。京和傘など伝統産業の分野で先駆的な事例があり、木材にも新たな視点があってもよいのではないか。
- ・ 設立した地域商社では中小企業の価値向上に貢献したいと考えており、木材もその一つとしてブランド価値の向上を図っていけるかもしれない。
- ・ 地域金融機関として、多くの取引先に地域産木材の活用を広く情報発信するほか、林業経営のサポートや次世代の担い手の支援にも取り組んでいきたい。
- ・ 金融機関が住宅ローンを作ったことで京町家の流通が進んだ。住宅建築に京都市内産木材を使う場合の金融財政上の優遇などが考えられるとよい。
- ・ 木材利用を進めていく理由/動機付けとして、住宅ローン金利の優遇や補助金などの金銭的なメリットに加えて、企業が環境への貢献を発信する上で、木の利用に対して気持ちよくお金が払って貰えるような枠組みを作っていく必要がある。ウッド・チェンジと関わることが企業にプラスとなるような取組ができるとよい。
- ・ 木材の活用だけでなく、生産の継続の視点も入れる必要があるのではないか。
- ・ 推進会議は、ウッド・チェンジに主眼を置きつつ、森林の所有や保全なども含めた総合的な議論ができるフレームであると考えている。
- ・ 文化的に定着させていくことも必要。小学生や中学生のときから、木造住宅の良さだけではなく、木材や山林の大切さを教育に取り込む必要がある。
- ・ お子さんのシックハウスに悩む方に、化学薬品を使用しない無垢の木材で建てた家を勧めることも、木材利用を促進する一つの方法ではないか。

以上